

そこで特に有名なのがオランダ方式というふうに、あるいはまたオランダでは1982年、政労使が時短、賃金抑制で合意した。オランダだけ紹介しますと、特に有名なのがオランダだと。

「オランダ病」と言われるほど大不況に陥ったが、82年に政府、経営者、労働組合の三者間でワッセナー合意を締結、経営者側は労働時間を短縮して雇用を維持し、労働組合は賃金抑制に協力する。政府は所得の減少を補うために社会保障負担を減らし、減税を行うことにした。

それから96年の労働法改正で短時間労働者が働きやすい環境づくりも進めた。賃金や昇進、社会保険の加入などについてフルタイムで働く正社員とパートタイムで働く短時間労働者の差別を禁止し、同一労働同一賃金を実現したとか、ドイツの方式、フランスの方式あって、非常に参考になるというものなんですが、こういったこともやっぱりよく研究して公務員社会の中にも多様な働き方を取り入れていくべきではないかなと思うんですね。そういう意味でフレックスタイム制なども一つの有効な手段であろうと思いますので、そこら辺について市長から答弁をいただいて終わりにしたいと思います。

○佐々木謙二議長 市長に申し上げますが、持ち時間が20分まででございますので、簡潔に答弁してください。

内谷重治市長。

○内谷重治市長 お答えいたします。

まず、納税の関係でございますけども、議員ご指摘のとおり、特に会社をやめられた方は昨年度の給与所得に対して税金がかかりますので、非常にご苦勞なされる状況だというのは実体験としてよくわかりますので、そういったことも踏まえながら共同アウトソーシングでちょっとシステムを簡単に変えることができないというところはありますけども、柔軟に対応するように努めてまいりたいというふうに思います。

あとワークシェアリングのことでございます

が、フレックスタイムも含めて検討したらということではありますが、フレックスはフレックスでまず必要な部分ございますので、これらについては検討してまいりたいというふうに思いますが、ワークシェアリングにつきましては今の人員体制の中で果たしてどういうふうに行うかということを検討していかなければならないと。残念ながら現時点ではワークシェアリングということを余り21年度考えておりませんでしたので、これからの課題としてぜひ検討してまいりたいというふうに思います。努力して、まず市民の皆様の痛みがわかるような市役所づくりに努めてまいりたいと思います。ありがとうございました。

小関勝助議員の質問

○佐々木謙二議長 次に、順位2番、議席番号14番、小関勝助議員。

(14番小関勝助議員登壇)

○14番 小関勝助議員 おはようございます。

今定例会、3月定例会におきまして、私は、盟政会を代表して順次一般質問をさせていただきます。重複するところがございますが、ご容赦いただきまして、シンプルに、そして淡々とお願いしたいと思います。

内谷市長から平成21年度の施政方針が示されております。

私を感じたのですが、今までの施政方針とは違い、世界的規模での金融危機、そして経済危機による雇用不安、そして社会不安、拡大する今日の状況になっております。本市の地域経済もその直撃を受けている中で、私を感じたんですが、今までと比べ物にならない市政への取り組みと熱意が感じられ、長期化が予想される景気低迷に全力で取り組んでいく姿勢があります。

ぜひこの危機を乗り越えていただくことを冒頭に期待申し上げ、順次質問してまいります。

さて、質問の第1点は、長井市経済再生戦略会議と、仮称ではありますが、長井市経済雇用対策本部についてお伺いします。考え方については市長、具体的な取り組みについては経済再生戦略会議については担当課の企画調整課長、経済雇用対策本部については担当課の商工観光課長にお伺いします。

経済再生戦略会議については、平成19年度に市長は市民所得の向上と経済の活性化を第1の公約とされ、戦略会議を立ち上げております。市民各層の代表者や神戸国際大学の中村先生の座長のもと、私は大きな成果を得たと思っております。

今年の3月定例会で私たち盟政会の会長の渋谷佐輔議員の質問で、「経済再生戦略会議はどこまで集約されるのか。行動計画などについていつごろをめどに結論を見出すのか」との質問に対して市長は、「具体的な方針を出したかったが、事務局やコーディネートの中村先生との意見疎通がうまくいかず、問題の抽出だけで終わってしまった」と反省されております。そして「20年度には具体的な施策を提案していただき、そして今年、21年度からその戦略に基づいて具体的なプロジェクトと企業・市民との協働体制で動いていく」と答弁されております。市長は施政方針の中で、平成20年度は市民委員の皆様からまちなか活性化構想、観光マーケティング構想、工業振興構想の3つの部会で活発な議論を重ねていただき、そしてことし2月23日の長井市経済再生戦略シンポジウムが行われておりますが、ここで中間報告として今までの成果を報告されております。そして、「平成21年度も継続して開催して議論の成果を具体的な経済再生の施策へ反映するため、官民一体となった推進体制の構築をしてまいりたい」と述べておりますが、また、その実現のため、市役所の

意識改革、上杉鷹山公の三助の精神を大事にしながら進めてまいりたいとしておりますが、市長もご案内のように、現在の長井市の経済・雇用情勢は平時のそれとは著しく環境が悪化しているのはご承知のとおりです。より一層の具体的な取り組みが必要と考えますが、私は経済雇用対策本部を市役所に設けることは非常にタイムリーな選択と評価します。しかし、実効性のあるものにするには現在まで経済再生戦略会議で蓄積されたノウハウをぜひ生かして、急速に悪化する本市の経済の再生、雇用の確保に向けて、市役所一丸となり取り組んでいただくことを期待申し上げます。市長、担当課長の意欲あるご所見をお伺いいたします。

次に、第2点目の、農業の第6次産業化推進とブランド化戦略会議について、市長と農林課長にお伺いします。

本市の農業については、市長は、農産物のブランド化の推進に積極的に取り組まれておりますが、基幹産業である本市の農業が、現在は低迷している現状にあることも事実であります。その中にあっても本市では、レインボープランに代表される高品質で安全・安心な農産物は市内外より高い評価を受けております。

私は、農業の分野から第6次産業の推進を提案したいと思っております。ご承知のように、第6次産業は、農林水産の第1次産業、食品加工の第2次産業、流通や販売・観光・サービス業の第3次産業を合わせたいわゆる複合型産業だと伺っております。そのねらいとしては、高付加価値をつけるとともに、就業・雇用の創出、そして所得向上につなげるねらいがあると考えられます。

市長も第6次産業には関心をお持ちのようですが、現在農業について、長井市農産物等ブランド化戦略会議で議論されていると伺っております。それぞれ他市町でも特性を生かした農産物のブランド化に向けて取り組まれております。

現在製造業、そして商業は厳しい経済情勢にあって苦戦をしておりますが、第6次産業は農業、商業、工業連携によって地域経済再生を目指す手段でもあります。

また、農・商・工連携は、農業から求めたものではなく、商業・工業からの提案に始まったと伺っております。そして地域の再生を目指す上で農業は、地産地消や人材・担い手の活用が不可欠と言われております。市長は、農業の第6次産業推進についてどのようなご所見をお持ちか、お伺いしたいと思います。

農林課長には、農産物等ブランド化戦略会議での取り組みについて、当初予算でも計上されておりますが、レインボープランの今後の運営と認証制度によるブランド農産物の地産地消の促進と販路拡大についてお伺いします。

次に第3点目の水のまちづくり構想と水道事業広域化について、水のまちづくりについては市長に、水道事業広域化については、水道事業所長にお伺いいたします。

内容市長は、施政方針でも特に水のまちづくりについては河川を基調としたまちづくりと述べておられます。

本市は、豊かな水に恵まれ、昔から瑞穂の国として栄え、最上川源流に位置する本市は、菅野ダム、木地山ダム、そして完成間近な長井ダムと全国でも、1つの河川に3つのダムが建設されることは珍しいと言われておりますが、間もなくその使命を終わる菅野発電所は、山形県で最初にできた水力発電所であり、歴史ある水力発電発祥のまちでもあります。平成21年度の当初予算の水のまちづくり推進事業費として約5,000万円を計上しておりますが、中央地区を流れる撞木川の整備や最上川フットパスの整備事業など、また長年の要望が出ておりました長井駅周辺の整備についても、せせらぎ水路の整備事業約1億2,000万円の予算が計上され、着実に水のまちづくり構想が進展しております。

市長は施政方針で「川をまちづくり、観光の核として活用し、地域の魅力向上を図るため、かわまちづくり支援事業にも取り組む」と述べておられますが、私もイメージはわかるわけですが、市長の目指す水のまちづくり構想の考え方をお聞かせください。

また、今年本市で開催される最上川リバーツーリズムセミナーのねらいについてお聞かせください。

さらには現在開会中の県議会で議論されております最上川の世界遺産登録事業について市長はどのようなご見解をお持ちか、お伺いしたいと思います。私は、積極的に取り組むことが今非常に重要な時期だと考えますが、率直なご所見をお願いしたいと思います。

次に、水道事業の広域化について水道事業所長にお伺いします。

長井は、豊富な水に恵まれ、「100%地下水のうまい水」として全国に発信しているわけで、自他ともに認められると思います。昨年、ポトルドウオーター水の販売も好評で、今年度の当初予算にも広告料として5,000本、50万円が計上されているようで、その波及効果を期待申し上げたいと思います。

また、第4次拡張事業により、清水町浄配水場更新事業や石綿セメント管更新事業も順調に推移しているようです。しかし、近年、人口減少による給水戸数の減少や節水思想による給水収量の減により、水道事業会計は年々厳しくなっているのも現状のようです。

その上でお伺いしますが、近隣市町より、水源地について苦勞されており、新たな水源地の確保を検討しているとお聞きしておりますが、水道事業所長はご存じですか。

その上で今まで水道事業の広域化に向けて具体的に協議をされたことがおありですか。

例えば近隣の町より要望があった場合、現在の給水能力で対応可能ですか、お伺いしたいと

思います。

以上で壇上からの質問を終わります。ご清聴ありがとうございました。（拍手）

○佐々木謙二議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 小関議員の方からは21年度の施政方針につきまして具体的なご提案、ご意見をいただきまして、大変ありがとうございました。

大きく3つの項目でございますが、私の答弁する内容については大体6点ほどちょうだいしたかなというふうに思っております。

まず最初の長井市経済再生戦略会議と、仮称であります。長井市経済雇用対策本部についてでございますけれども、まず長井市経済再生戦略会議について少しお話をさせていただきたいというふうに思います。これは小関議員ご指摘のとおり、長井市が、統計上の数字でございますが、ここ10数年来いわゆる経済成長率が非常に落ち込みが厳しい、そういったことから市民生活の安定、それから雇用の確保・創出、そして市民所得の向上を目指す、そういった取り組みをぜひ中期的な見方からやっていかなきゃいけないということでこの会議を19年度に設置したものでございます。そしてこれはもちろん行政ではその担い手にはなりませんので、あくまでも民間の皆様、市民の皆様がその担い手でありますので、官民一体でいろんな提案あるいはそういった体制をつくっていかうというものでございます。

19年度は、14名の市民委員の皆様と神戸国際大学の中村先生、そして中心市街地観光、ものづくり等々につきましていろいろ議員ご指摘のとおり問題の抽出で1年目を終わったのかなというふうに思っております。

2年目は、ことしはそれの反省を踏まえながら、委員の皆様も37名までふやしまして、3つの部会に分かれていただいたと。しかも山形大学の人文学部の先生に大学と連携するような形で3名の方にそれぞれコーディネーターとして

お願いし、さらにもものづくりとして20年来長井においていただいている一橋大学の関先生からご協力いただいているいろんな議論をして、そして中間総括としてこの間シンポジウムを行ったとおりでございます。

それで参加された皆様には市経済の再生に対する相互理解、それから合意形成の必要性をお示ししながら、その方向性や今後の長井市のまちづくりの可能性をご理解いただきまして、そんな意味では所期の目的がある程度達成できたと考えておるところでございます。

この間のシンポジウムには、議会の方からも議員の皆様から多数出席いただいて、本当に感謝申し上げる次第でございますが、21年度については今度具体的なそういった取り組みのための体制づくりをプロジェクトをつくってまいりたいというふうに考えておるところでございます。

それとその関連でございますが、長井市経済雇用対策本部、この設置であります。これは先ほど蒲生議員のご質問にもお答えいたしました。市民の皆様が暮らしの安定が脅かされてる現状から、まず行政も全力でその対応を真剣に取り組まなきゃいけないと。しかし、行政だけではできないことというのは限られております。行政というのは、この場合市であります。国、県にしっかりとお願いしていかなくちゃいけない。同時に、関係団体あるいは市民の皆様と一緒にテーブルでどういったことをしたらいいかという意見、議論を進めながらやっていくために先ほど申し上げました協議会を設置してまいりたいというふうに考えておるところでございます。

そしてこの経済再生戦略会議の方では、中期的な見通しであります。まずやれるところから早速21年度緊急経済雇用対策と含めて中期的なもの、短期的なもの検討しながら着手していかなくちゃならないというふうに思っております。

2点目の農業の6次産業化の推進、それから

ブランド化戦略会議でございますけども、これもいわゆる農業の長期低迷化、特に米価が半値まで落ち込んでしまったということから何とかして農業所得をどのように上げるか、農業経営、農家所得の安定を目指すためにこれはずっといろんな意味で長井市としても努力してきたところでございますけども、昨今の6次産業化、いわゆる1次産業、2次産業、3次産業のそういったすべてのものがそれぞれの分野で求められてると。例えば先ほど蒲生議員からありました工業の分野で中国の方に原材料の方、非常に注目された原材料が活況を呈しているというような話ありましたけども、農業の中でも原材料である米とか野菜とか果樹とか畜産とか、そういったものの質が問われる時代、そして農業でも加工の部分とか、あるいは3次産業のサービスの部分も含めて総合的に考えていくというあり方が今必要になっておりますので、そういった意味では長井市としてはレインボープランの理念を生かした、そして知名度を生かした安心・安全のブランド化を進める必要がある。これは昨年特に食の安全、中国のいろんな食料品あるいは汚染米のこととかそういう問題がありましたので、これもそういった意味ではブランド化進めてるところはどちらかというと加工品のブランドを進めてるところが市町村の場合多いんですけども、長井市の場合は、まず素材である部分にこだわらなきゃならないだろうということで進めてきた方向性は私は正しいというふうに思っております。

ブランド化については、先ほど申し上げました安全・安心で高品質なものでなければもうこれから評価されません。また、農産物だけじゃなくてまちづくりとして地域そのものを売っていくんだという考え方で情報発信も同時にしていかなきゃいけない。ですからファンクラブを設けながら情報発信のまた別なツールも考えていくという戦略で考えております。

そして長井市推奨農産物等認証制度を創設したところでございます。兵庫県の豊岡市は、コウノトリの生息地として有名でございますけども、平成19年産米が実はそのこの豊岡の米が魚沼産コシヒカリに次いで2番目に高かったと。たしか10キロ当たり5,600円だか6,000円ちょっとぐらいだったと思います。そこは別に水がいいとか、あるいは米どころということじゃなくて、コウノトリがすんでる非常に環境のいいそういったところの米は安心して安全だということで高かったわけですけども、そういった発想が今求められてるというふうに思います。

これからの進め方としては、認証農家の方、やはり市の方も努力しながら、すぐメリットをお上げすることできない。販路も同時に開拓しなきゃなりませんので、そういった意味ではその理念を理解していただく農家の方に行政側も積極的に働きかけながら栽培農家をふやしていく努力を続ける。同時に、販路もいろんな販路を考えていかなきゃいけない。先ほど申し上げましたように、ファンクラブを通じた通販であったり、あるいは問屋を通さないで、市場を通さないで直接小売店あるいは消費者に届けるそういったやり方を昨年いろいろ努力してまいりましたので、これからも鋭意努力しながら、加えて加工品の方も今度は21年度に少しずつ取り組んでまいりたいと、検討してまいりたいと思っております。

前にも申し上げましたけども、なかなか実現するには難しいかもしれませんが、有機の野菜ジュースとかそういったことも一つの、長井の有機野菜だけでつくった野菜ジュース、これは全国的にも例がありませんので、そういったものをぜひ目指してまいりたいと思っております。

それから時間の方もございませんので、3点目の水のまちづくり構想と水道事業の広域化についてでございますけども、私の方からは水の

+

まちづくり構想、市長が目指す水のまちづくりの考え方についてでございますけども、これ長くなりますので、ちょっと省略して答弁させていただきます。私が考えてるのは具体的にどういうものかということですが、川を生かしたまちづくりをしなきゃいけないということで、実はこの間、山形県の市長会の方に川の日を国民の祝日に求める提案を長井市からいたしました。残念ながら継続審査ということになりましたけども、町村会、あと市長会でそういった、町村会の方も山辺町長と一緒にやろうということですので、おいおい提案があると思いますが、そして県の方にも動いていただいて、やはり山形県の母なる川、最上川を生かした県土づくり、そして我々はまちづくりをしなきゃいけない。そのためにかわまちづくり事業とか国土交通省あたりにもいろいろ働きかけながら全国で1番目の承認を目指して努力してるところでございますけども、具体的にどういうものかというイメージで申し上げますと、やはり見る、味わう、遊ぶ、あるいは学ぶ、いやすことができる、精神的にですね、そういったものが川とか水にはあるんじゃないだろうかと。そういった意味ではまちの中に水飲み場、自由に水を飲める場所、そしてそういうちょっと休みながら水を飲めるということですね、あるいは残念ながら裏通りに行くと水路を長井見れるんですけども、表のシンボルロードの周辺にシンボリックなやっぱり水路を幾つかできないものかということ、この辺を本町の街路事業なんかと絡めながら考えてるところでございます。

また、表玄関であります長井駅の方、鉄道の表玄関ですね、その駅周辺には親水公園を21年度やるわけでございますけども、また河川敷の中では、ぜひ、舟運のまちだったわけですから、船着き場をつくる、再現する、あるいは歴史的な建造物の中で足りないもの、船着き場の足り

ないものですが、船着き場といいますか、舟運の文化として足りないものを建設するというところも検討しなきゃいけないんじゃないか。

また、味わうということで、水だけではなくて、例えば魚を味わえる、白鷹町にあるようなやな場とか、白鷹だけじゃなくていろんなところにやな場あるわけですけども、長井市でもやな場があつていいんじゃないかというふうに思ってますし、あとフットパスをぜひもっとPRしたり充実しながら健康管理できるように、そんなことを考えてるところでございます。

それから最上川のリバーツーリズムでございますけども、これは私が会長を務めておりまして、県内の最上川に関する沿川の市と町、村、それと色々な関係団体と構成しております。この最上川流域観光交流推進協議会におきまして毎年4ブロックで持ち回りでこのセミナーを開催しておりますが、ちょうど21年度は長井市で、置賜ブロックの開催でございますので、長井市で主会場で実施してまいりたいというふうに考えております。

セミナーでは、現地研修のほか講演会あるいはパネルディスカッションなどを予定しております。できるだけ多くの皆さんに集まっていた中で長井が舟運のまちとして発展してきた歴史を明らかにしていきたい、そして長井をPRしていきたいと思っております。

最後の水道事業所の広域化については水道事業所長から答弁いたさせますが、私としてはこれは平成19年からぜひ進めるようにということで水道事業所の方に検討させていた案件でありまして、特に白鷹、飯豊とは非常に隣接しておりますので、また白鷹も飯豊も独自で水を確保されておりますが、いろいろ苦勞されてるということもお伺いしておりますので、ぜひ広域でできたら大変ありがたいと。ただし、長井市にメリットがある形で進めるようにということで今検討してるところでございます。以上でございます。

す。大変ありがとうございました。

(「世界遺産について」の声あり)

○内谷重治市長 失礼しました。世界遺産でございますが、世界遺産につきましては、これは平成19年でありまして、県が主体となって沿川の市町村と一緒に進めようということで同意を求めております。その中で長井市としてもぜひ最上川舟運で栄えたまちでありますから、一緒にそういった取り組みをしていこうということで同歩調をとってるわけでございますが…失礼しました。これは詳しく申し上げますと県と26の関係市町村が世界遺産暫定一覧表の登載に向けまして提言いたしまして、平成19年12月に文化庁に提出してると。これが「最上川の文化的景観 一舟運と水が育んだ農と祈り、豊饒な大地」というタイトルでやってるそうでございます。その提案の中に、あら町通り周辺地域及び十日町通り周辺地域が小出船場、それから宮船場を中心として成立した商家群として資産に含まれる文化財リストに登録されておまして、記載登録候補の共同提案者になることについて先ほど申し上げましたように平成19年12月12日付で同意しております。

市といたしましても宮、小出のまちなみ、また現在5軒13棟の登録なりました有形登録文化財を活用したまちなか観光を推進してまいりたいと考えておりますので、最上川の文化的景観が高められる諸施策の推進について積極的に先ほど申し上げましたように取り組んでまいりたいと思います。以上です。どうぞよろしく願います。

○佐々木謙二議長 遠藤健司企画調整課長。

○遠藤健司企画調整課長 小関勝助議員のご質問にお答え申し上げます。

平成21年度の経済再生戦略会議につきましては、例えば20年度議論してまいりましたまちなか活性化構想と観光マーケティング構想の中のまちなか観光分野とのあわせて議論するなど少

し3つの部会を有機的に統合したいというようなことを考えております。

また、その上で21年度も継続して開催しまして、平成20年度の会議で出していただいた農・商・工連携施策、その他諸所の活性化策のうち何をいつまでどのようにやっていくか、優先順位をつけながらアクションプランまで策定していけばと考えてます。その上、平成20年度予算に反映できる施策から関係課と順次予算要求の検討を進めていきたいというふうに考えております。

ただ、しかし、こうした会議を市内の経済の動きに結びつけるには、市長が申し上げましたとおり何よりも市民の皆様のご理解と主体となった取り組みが必要というふうに思います。経済再生戦略会議の皆様は、メンバーが市民の皆様ですので、議論の中で施策を実効性のあるものにするために市民の皆様の役割、あるいは行政との協働はどうしたらいいかといったちょっと踏み込んだ部分まで意見をお聞きしながら取り組んでいかなければならないというふうに考えておるところです。

こうした過程で、まだ仮称でございますが、(仮称)長井市経済雇用対策本部あるいは協議会に対してもこちらの戦略会議で出していただいた市の経済活性化策をどんどん提供申し上げながら意見、提言を賜ると。その他の事務事業等調整を図りながら効果的な経済・雇用施策の推進を図っていく必要があるというふうに考えておるところでございます。以上でございます。

○佐々木謙二議長 遠藤正明農林課長。

○遠藤正明農林課長 お答えいたします。

農業の第6次産業化推進とブランド化戦略会議につきましては、3点ほどかと思っておりますけれども、第1であります、農産物のブランド化戦略会議の取り組みにつきましては、レインボープランのまちなかとして安全・安心な農産物の生産を目指し、本市農産物のブランドを図っ

ていくものでございます。

戦略会議につきましては、平成19年9月に設置いたしております、長井市推奨農産物等認証制度実施要綱を平成20年の3月に決定いたしております。認証の方法でございますが、20年度よりスタートいたしまして、初年度の認証につきましては認証面積72ヘクタールほどになっているところでございます。

作目では米、スイカ、メロン、大豆等でありますけれども、平成21年度の取り組みといたしましてレインボープラン推進協議会と一体となりまして説明会を開催するなど普及に努めてまいりたいというふうに考えております。

また、農地・水・環境保全向上対策による環境保全型農業、営農活動支援地域が拡大いたしておりますので、ブランド農産物等の生産拡大を目指してまいりたいというふうなことでございます。

販路拡大につきましては、21年度も仙台等での調査活動を実施いたしまして、消費者のニーズに合った農産物の生産に生かす、そういったことを展開しながら販路拡大に結びつけていく必要があるというふうに考えているところであります。

それから地産地消についてであります、幅広く生産者が参加できる直売所につきましては、本市にもまだまだ成長の余地があるというふうなご意見が経済戦略会議等においても出されているところでございます。生産者のそういった取り組みに対しまして市としてもサポートをしていく必要があると考えているところであります。

また、ながい地産地消まつりが開催されておりますけれども、昨年に続き市といたしても実行委員会に参画をしてまいりたいというふうに考えてるところでございます。

さらにレインボープランのコンポストセンターの運営でございますけれども、当初予算に必要

な修繕を計上させていただいております、良質堆肥の供給力を維持いたしますとともに、担い手にもより利用していただけるよう努める必要があるというふうに思っているところでございます。以上、答弁とさせていただきます。

○佐々木謙二議長　ここで昼食のため暫時休憩いたします。再開は午後1時といたします。

午前11時58分　休憩

午後1時00分　再開

○佐々木謙二議長　休憩前に復し、午前に引き続き会議を再開いたします。

市政一般に関する質問を続行いたします。

齋藤理喜夫商工観光課長。

○齋藤理喜夫商工観光課長　お答えいたします。

(仮称)経済雇用対策本部につきましては、商工会議所あるいは農協あるいはハローワーク等々の関係団体の情報交換と協議の場として設置を考えているものでございます。

当面は現下の経済・雇用対策についての議論が重点になるかなというふうに考えてございますが、庁内の、市役所内の現在の緊急経済雇用対策本部につきましては行政ができるものについて検討しているわけでございますが、より幅広く、また専門的な立場で実際に施策を展開する上では関係団体との協力が必要になってまいります。そうした場として考えているものでございます。

なお、議員ご指摘のとおり、庁内の対策本部とあわせて迅速な対応を図り、相乗的な効果を上げられるよう体制をつくっていきたいというふうに考えております。以上です。

○佐々木謙二議長　渡部政明水道事業所長。

○渡部政明水道事業所長　小関議員のご質問にお答えいたします。

1 点目の近隣の小国町、白鷹町、飯豊町の水源など水道施設で苦勞されている件でございますが、3 町それぞれ課題を抱えており、対策を講じております。小国町では、今年度、平成20年度から新たな水源開発に取り組んでおります。白鷹町では、来年度、平成21年度から浄水場に新しいろ過施設を整備するとお聞きしております。飯豊町では、平成21年度に老朽化した水道施設の更新や新たな水源施設を含めた将来の基本計画を策定するとのことであり、3 町いずれも老朽した水道施設の更新という大きな課題を抱えているようであります。

2 点目の水道事業広域化に向けての具体的な協議についてであります。今まで正式な協議は実施したことはありませんが、昨年2月に策定しました長井市地域水道ビジョン「長井市水道事業基本計画」において将来の長井市水道事業の経営効率化を図るため水道事業の広域化を提言させていただいております。

このことを受けまして昨年3月に1市2町、長井市、白鷹町、飯豊町の水道事業担当で勉強会をする運びとなり、昨年3月と5月に県の水道事業担当を講師に招きましてご指導をいただいた経過がございます。県の担当者からは、各市町の水道事業の課題と危機管理対策、地震対策等国庫補助事業について、さらには新たな水道広域化についての補助メニューなどについてご指導をいただいたところであります。

その後、昨年7月、長井市を含む1市3町で組織する西置賜地区水道協議会総会時に広域化に関する勉強会を開催したところであります。各市町の現状などを意見交換をしまして、今後の水道事業のあり方について議論をしたところであります。この西置賜地区水道協議会でも各市町が置かれた現状や課題、今後の整備計画等に生ずる費用関係や危機管理の問題を分析し、また検討しまして、勉強会を継続することを確認しているところであります。

長井市としましても経営の効率化という観点から今後もこの広域化についての勉強会を継続していきたいと考えております。

3 点目の仮に近隣の町から水道水供給の要望があった場合の現在の長井市の給水能力についてですが、現在の長井市の1日当たりの使用状況と1日当たりの配水能力から見ると可能だと考えます。ただし、この場合、予備的な水源、深井戸になるわけですが、それが必要になると考えます。私からは以上でございます。

○佐々木謙二議長 14番、小関勝助議員。

○14番 小関勝助議員 それぞれ丁寧なご答弁ありがとうございました。

それでは、再質問をお願いしたいんですが、最初に、市長に再度お願いしたいと思います。最初にお伺いしました経済再生戦略会議、これ19年から始まったわけで、非常に備えあれば憂いなしという昔の言葉ありますけれども、やはり当を得た戦略会議だったかなと私は高い評価をしたいわけですが、先ほど答弁があったように19年、20年とそれぞれ組織力強化されて、一定の評価をされたのかなと思いますが、そういう中で21年度も先ほど具体的な答弁いただいたわけですが、これから今後ずっとこれを延々と続けるということにはいかないわけですが、やっぱり一定の成果が出た時点でとなると思うんですが、それはいつごろを目指しておられますか、ひとつ具体的なまとめの時期お聞かせ願いたいと思います。

○佐々木謙二議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 お答えいたします。

21年度には具体的にできるところから取り組んでいくと。市で本部を設ける、経済雇用対策本部、それと協議会を設けるわけですが、そちらにも提案しながら21年度から具体的に進めてまいりたいと思いますが、やはり余り時間もかけてもしょうがありませんので、21年度中あたりに大体のめどをつけたいと。

次は、この経済再生戦略会議の中でも話出ておりますが、人をどのようにして育てるか、あるいは見つけるかという市民の中からそういったお話があります。結局行政が担うわけじゃありませんので、その幾らアイデアあったってこうすればいいんじゃないか、ああすればいいんじゃないか、そのために行政もこういう支援しますよと言っても、それを取り組むやっぱ人材が必要だろうと。人材育成の方に今度は力点を置いていかなきゃいけないんじゃないかなど、そのように考えてるところでございます。

○佐々木謙二議長 14番、小関勝助議員。

○14番 小関勝助議員 そのとおりでと思いますが、いずれにしてもこれには市長の強力なリーダーシップが必要なわけですから、ひとつ今後このつくられた環境、今変わってるわけですから、3年前と、非常に非常事態なわけですから、ぜひこの戦略会議が実効性のあるものにひとつこれからも取り組んでいただきたいと思っております。

2番目の第6次産業、これは1、2、3を足すと6になるわけですが、それだけではなくて、やはり農業の魅力といいますか、こういう不況になりますと農業の底力といいますか、そういうことが見直されるのかなど、今後の地域経済を引っ張っていく原動力になるのが農業なのかなど、こんな思いもしているわけですが、本県でも4月30日に今まで課題になりましたアンテナショップ、これ東京、銀座ですか、ネーミングもおいしい山形プラザですか、これが4月30日開店にこぎつけるようです。

また、山形97号のネーミングも「つや姫」というような非常にユニークなネーミングが決まりましたし、ちょっと今足踏みしております山形セレクション、これについてもこれからの農業を、これからの大きな力になるのかなと思うんですが、市長も積極的に出向いていろいろ産直の販売の先頭に立っているわけですが、

これからアンテナショップですか、これと今後の産直を続けていく、これも大事なことだと思うんですが、今までも実績あったと思うんですが、これからどのような考えをお持ちですか。市長の考え方で結構ですから。

○佐々木謙二議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 アンテナショップにつきましては、現在板橋区のとれたて村の方に長井の人たちが努力されて店出しておられます。それに長井市の方でもいろいろお手伝いしながら進めておりますが、そこをどうするかということと、それから県の方で今度新たに銀座の方につくられると。これはこれでももちろん長井市としても協力したいし、むしろ積極的にPRの場として、場所も銀座ですから、取り組んでみたいなどいうふうに思っているところでございます。

○佐々木謙二議長 14番、小関勝助議員。

○14番 小関勝助議員 ぜひ立派なアンテナショップできるわけですから、ひとつ積極的な取り組みを期待したいと思います。

3点目の水のまちづくり構想、これについてはいろいろ市長の考え方お聞かせいただきました。やはり長井は、水豊富なわけですが、この水の生かし方、今後これが非常に大きなまちづくりにもかかわってくるのかなと思います。

先ほど川の日ですか、そういう提案をされているということをお聞きしました。ぜひこれも実現に向けて精力的に取り組んでいただきたいなと思います。

それから先ほど長井町は昔から舟運のまちだと、そういうことで船着き場を考えているという話もありましたが、道路には道の駅がございますけれども、川には川の駅ございません。我々の会派から川の駅構想どうなのかなど、そういう新しい提案がありましたので、この川の日と川の駅構想、これについて市長、どうですか、この辺ぜひこれから進めていただいて実現できればと、非常に水のまちづくり構想に一助

になると思うんですが、その辺はどうか、お聞かせください。

○佐々木謙二議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 船着き場というのは、単体で機能だけを申し上げたんですけれども、考え方としてはやはり川の駅みたいな形でいろんな機能を持たせたそういうエリアがあってもいいんじゃないかなと思ってます。

かわまちづくり事業については、結構いろんなことが考えられまして、特にさくら大橋と長井橋を結ぶといいますか、周遊のコース、昔から金井神周遊コースなんて言っていましたけども、そういったところのエリアでどのようなことが考えられるか、また道路沿いに川の駅というのは普通設けますので、そういった含めてぜひ検討したいなというふうに思います。

○佐々木謙二議長 14番、小関勝助議員。

○14番 小関勝助議員 ぜひ取り組んでいただければ非常にこれからの水のまちづくりに大きな力になるのかなと、こんな思いをしますので、ひとつお願いしたいと思います。

市長は施政方針で、「周辺の西置賜の町とさらなる連帯を深めながら将来の長井市のあり方模索する」と述べておられます。そういう意味から先ほど水道事業の広域化を私、提案させていただきました。

今、水道事業所長からは協議会を設置されて勉強会してると言われましたが、やはり各町とも今水源地に苦勞されているようです。水道事業所長からは、水源地、長井市は地下水ですか、安定したそういう水源地持っているわけです。ぜひこれも協議会の中で、あと西置賜行政組合もあるわけですから、その辺の中で、小国町さんはまた水系が違いますか、でもやっぱり白鷹町さん、飯豊町さんと具体的に進める、今そういう時期なのかなと思います。ぜひその辺のご見解をお聞かせ願えればと思います。

あともう1点なんですが、先ほど最上川の世

界遺産事業、これ申し上げました。当然母なる川、最上川は本県にとっても本市にとっても大変重要な県民歌にも歌われてる川です。先ほど市長の答弁の中で「この事業がちょっと停滞しますと長井市のまちづくりにもいろんな支障が来る」というような答弁がございました。非常に私も心配しております。やはりその意味でもこの事業には積極的に本市でも取り組むべきだなと私も今考えたところですが、その辺についてお聞かせください。

○佐々木謙二議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 まず最初に、水道事業の広域化についてでございますけども、長井市の場合、もちろん飯豊、白鷹、川西などもそうでしょうけど、川西は今、県からいただいておりますので、やっぱり企業会計ということで独立採算でやっております。これを広域化で例えば行政組合でやるということについては、これ不可能ではないとは思いますが、やはりなかなか難しいんじゃないかと。実際長井としてそれを一本化することによって、企業会計ですから、料金が上がるようなことあってはだめなわけですね。今ある水道料金自体は飯豊の方が長井より若干高く、白鷹は長井より若干低いということですけども、そういったことも含めて供給水量は十分ありますし、必要だったら長井の方で井戸を掘ればいいわけですから、可能だとは思いますが、その辺は実際広域合併すると、そういう方向になればそれらについても検討することになると思いますけども、現在の中で西置賜行政組合でやるということはちょっと難しいんじゃないかなと思っております。

2点目の最上川の文化遺産の登録でございますけども、長井としては先ほどからお話あったように川を生かしたまちづくりをしていきたいと。そういった中で県の方が26の市町村と連携をとりながら登録を目指してきたわけですから、ぜひ吉村知事には引き続き県と市町村力合わせ

+

て、あるいは関係団体とやっていただくように要望してまいりたいというふうに思います。

○佐々木謙二議長 14番、小関勝助議員。

○14番 小関勝助議員 最後に要望だけ申し上げまして質問終わりたいんですが、水道事業の広域化、これについては市長おっしゃったように、やはり長井市の水道事業所がこれがよくなるのがこれももちろん前提だと、私もそう思います。しかし、ほかの市町村も今大変苦労しているということもこれ事実なんです。ですからその辺はこれから、勉強会もしてるわけですから、これを少しグレードアップといいますか、ちょっと格上げをしていただいで具体的な取り組みをお願いしたいとこう思います。

先ほど最上川の文化遺産については、やはりいろいろな形で長井市のまちづくりにも影響するというようなことで県からも承っております。ですからやはりまず今、知事の話も出ましたが、まず知事の考え方は別としてもやはり本市も最上川の上流に位置する大事なそういう位置づけなわけですから、ひとつそういう観点からいろんな角度で県に働きかけ、そして沿川の市町村と力を合わせてまず誤りのないような進め方をお願いして質問終わります。ありがとうございました。

高橋孝夫議員の質問

○佐々木謙二議長 次に、順位3番、議席番号10番、高橋孝夫議員。

(10番高橋孝夫議員登壇)

○10番 高橋孝夫議員 私は、革新クラブを代表して、今後の市の行財政施策が真に市民生活の向上に結びつくようお願いながら質問行います。通告しております3点につきまして順次質問申し上げますので、明確な答弁をいただきます

ようにお願いをしておきたいと思います。

なお、重複をしてる部分もありますが、あわせて答弁をいただきますようお願いを申し上げます。

質問の第1は、施政方針についてです。

先週の施政方針の説明をお聞きして私は、短目な文章ながら、その中にはさまざまな苦心の跡が見えると感じたところです。

政府の言葉をかりれば「100年に1度の未曾有の状態」と言われる中で、地方の小さな自治体がどう喫緊の課題をクリアーし、同時に将来の展望を指し示すことは本当に難しいことと思います。今、大切なことは、いたずらに嘆いたり、悲観したり、さまざまな言葉を重ねたり、とっぴなことを言い合ったりすることではなく、現状をしっかりと見きわめながら着実に取り組みを積み上げていくことと私は思います。

しっかりと現状を把握をしながら、誤りのない取り組みを進めていただきたいと考えます。

私は、示された施政方針の中には初めて耳にする内容あるいは方向性が比較的に多いとも感じたところです。

そこでこの項では、理解を深めさせていただくために素朴に疑問に感じたことを中心にお聞きをしたいと思います。

その第1点目は、長井ダムの試験湛水開始による置賜野川の流水確保策について伺います。

施政方針では、「長井ダムについては平成22年の完成を目指し、着々と工事が進められています。今年度中には試験湛水が開始され、平成22年の春には水を満々とたたえた長井ダムの姿が見られることと思います」と触れられています。

長い期間を費やした長井ダム建設もいよいよ本体に水をたたえるところまで来たということになります。

喜ばしいこととは思いつつも、同時に「ダムが完成したら置賜野川は常時上流からの流水が